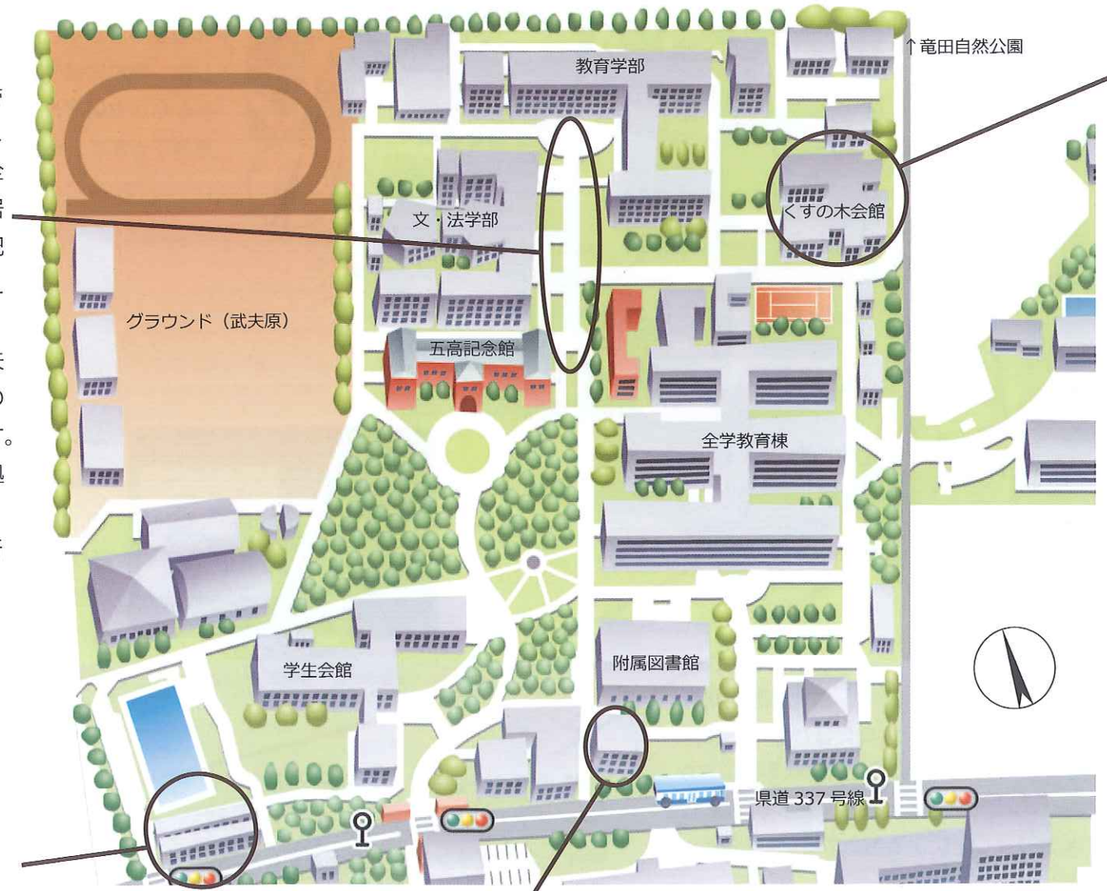
熊本大学地下の文化財：黒髪北地区（黒髪町遺跡群）1

Kumamoto University Buried cultural property Map : Kurokami North area (Kurokamimachi site)

熊本大学埋蔵文化財調査センター　Reserch Center for Buried Cultural Properties

熊本大学は遺跡の上に立地している大学です。埋蔵文化財調査センターでは 1994 年の設立以来 17 年間にわたって学内の建物建築や改修工事に伴う地下の文化財（埋蔵文化財）調査を行っており、その成果の積み重ねから、構内の遺跡の様子が少しずつ判明してきています。皆さんが普段過ごしている教室のある建物の下や、大学内の道路の下から見つかったものについて、主なものをご紹介しましょう。



文法学部棟周辺でも、道路・水道管工事のため狭い範囲を掘削しました。人々の住んでいた集落（ムラ）の全体像の把握はできませんでしたが、住居址の一部などは確認できており、五高記念館周辺にも集落址が残っていると考えられます。

また、黒髪南地区から延びる官道が武夫原グラウンドあたりを通って熊本大学の裏手へと続き、大宰府へとつながります。大宰府は対外交渉の窓口・対外防衛の拠点・九州地域の統轄を目的に今から約 1 300 年ほど前におかれた地方最大の役所です。

縄文時代

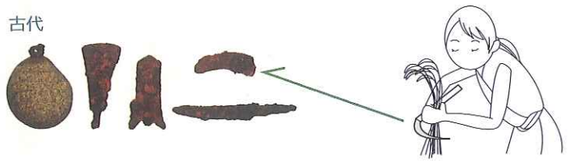
縄文時代の石器
（左：石斧（長さ 8.8cm）　右：鏃）

現在の文化部サークル棟の下からは、縄文時代早期から前期にかけての土器・石器などが発見されています。これは約 10000 年前からこの付近で人々が生活していたことを示すものです。石斧は主に木を切ったり、削ったりするのに用いられたと考えられています。木を伐採し、獲物を狩って生活する人々の姿がイメージできます。（1998 年度調査）

調査区全景（奥に図書館・教養棟）

附属図書館南棟・放送大学熊本学習センター建設時の発掘調査では、古代の竪穴住居址・掘立柱建物跡が発見されました。人々がこの場所に住んでいた証拠といえます。また奈良時代の石権（天秤のおもり）など官衙（かんが・昔の役所）に関わるような出土品のほか、鉄器や縄文時代の土器・石器が見つかっています。（2004 年度調査）

古代



出土した遺物
左：石権（幅 4.1cm）　中央 2 点：鉄鏃
右上：鉄鎌　右下：刀子状鉄製品

古代

「馬」銘刻書土器と土馬

くすの木会館建設時の発掘調査では、「馬」という文字が書かれた土器や土馬が発見されています。土馬は、古代においては水に関わる祭祀に用いられた呪具です。また、文字の存在は識字層の存在をうかがわせます。本調査北地点では、出土品の量や内容から、古代豪族　建部公（たけるべのきみ）の住まいにあたるのではないかと考えられます。　（1994 年度調査）

他地区ではこのようなものが出土しています

京町地区（京町台遺跡）　*Kyomachi area (Kyomachidai site)*

出土した磁器蓋
（2007 年度調査）

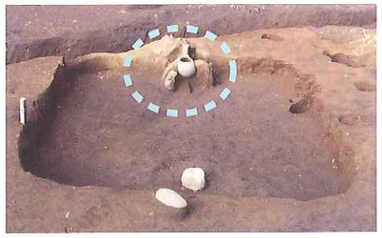
左の写真は、附属中学校を発掘調査した際に発見された熊本大学の前身校のひとつである熊本師範学校の寮の食器（磁器蓋）です。また、同敷地からは弥生時代後期の竪穴住居址や墓壙が検出されました。

かつて附属小学校・中学校の敷地は、肥後藩家老澤村家の広大な屋敷跡でした。出土品には優品が多く、当時の武家屋敷の生活の様子がうかがえます。このほか江戸時代の土坑や井戸も発見されています。

本荘地区（本庄遺跡）　*Honjo area (Honjo site)*

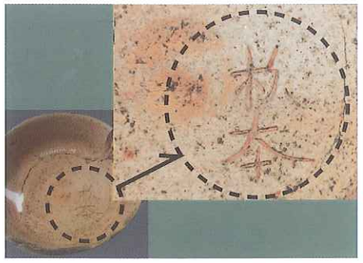
本荘地区では、研究棟や病棟の建設で多くの調査が実施され、主に古墳時代前期と古代（奈良・平安時代）の遺構（建物や溝など）が良く残っていることが判明しました。また、周辺ではめずらしく、弥生時代の遺構（溝）も確認されています。

1996 年度に発掘調査が実施された医学部校舎建設地点では深い溝の中から文字が書かれた土器が大量に出土し、「佛（ほとけ）」「枚本寺（くほんじ）」と読めるものがあります。有力豪族の氏寺が存在し、現在の「九品寺（くほんじ）」の地名がこれに由来するものであることが分かりました。



住居址に残るカマドの跡（1995 年度調査）

住居址の内側に煮炊きをするカマドのあと（点線で囲んだ部分）が見つかり、カマドにのせた土器も一緒に発見された貴重な例です。



ヘラ書き土器「枚本」（1996 年度調査）

溝から発見された土器（2001 年度調査）

古墳時代前期の土師器

中央の甕は薩摩半島から鹿児島湾岸地域で多く見られる土器で、今のところ北限の資料と思われます。

（鹿児島大学埋蔵文化財調査室中村直子氏御教示）

熊本大学地下の文化財：黒髪南地区（黒髪町遺跡群）2

Kumamoto University Buried cultural property Map : Kurokami South area (Kurokamimachi site)

熊本大学埋蔵文化財調査センター　Reserch Center for Buried Cultural Properties

百周年記念館から延びる道路部分の発掘調査では縄文時代の土器・石器が多く発見されました。

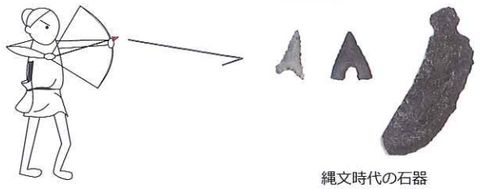
縄文時代早期の土器は今から約 7000 年前のもので、黒髪地区で最も古い土器です。

石器では弓矢の矢の先につけて獲物を狩るために使うやじりや、携帯用ナイフと考えられる石さじという石器が見つかっています。大昔この付近で狩猟が行われていたと考えられます。（2003 年度調査）

縄文時代

縄文時代早期の土器

縄文時代



縄文時代の石器
（左：鏃、中央：鏃（長さ 2.2cm）　右：石さじ）

工学部研究棟建設時には、弥生時代（今から 2300 年前）に九州北部で流行したお墓の様式である甕棺（かめかん）墓が大量に見つかりました。

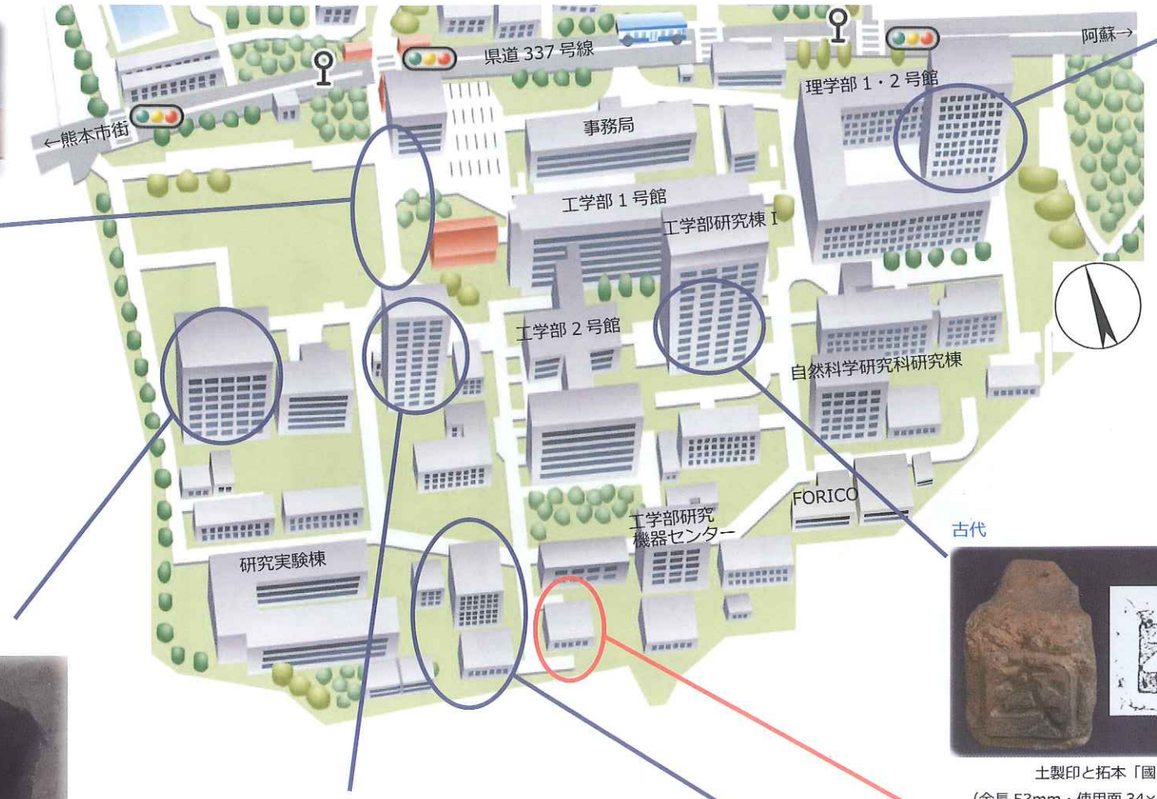
ここ熊本まで、その流行が伝わってきていることがわかります。この周辺では黒髪南地区の西側を中心に、黒髪式土器や須玖（すく）式土器（弥生時代中期）を使用した甕棺墓地があることがわかっています。

（1997 年度調査）

弥生時代

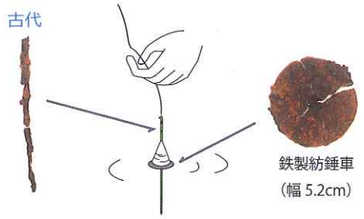
発見時の甕棺墓

このように埋葬されたと考えられています。多くの副葬品を伴う場合もあったようです。



理学部研究棟がある地点では、7 世紀後半～ 8 世紀後半を中心とした、20 以上の竪穴住居址が見つかりました。住居址の焼けた土の中から、炭化したセンダンの実やモモの核、米、その他種子が発見されており、当時の植生や食生活を知る手がかりとなります。また、鉄製の紡錘車（ぼうすいしゃ：繊維に撚りをかけて糸を作る道具）も出土しています。糸からは衣服が作られたのでしょうか。当時の人々の暮らしが想像できます。（1998 年度調査）

古代



鉄製紡錘車
（幅 5.2cm）

古代

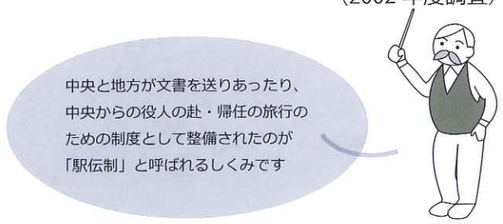
土製印と拓本「國」
（全長 53mm・使用面 34×32.5mm）

工学部研究棟 I がある地点では、土製の印が出土しています。使う面は角がとれ破損していますが、「口」（くにがまえ）のあった痕跡があり、恐らく「國」の正字と考えられます。

印鑑を使用していたのは文字を使う階級の相当な権力者であったと考えられます。よく見ると持ち手の部分には小さな穴があいています。ヒモを通して使っていたのでしょうか。　（1994 年度調査）

総合研究棟がある地点では、古代官道の側溝と思われる溝が南北方向に延びる形で発見されています。この溝は今から約 1300 年前におかれた地方最大の役所である大宰府へ通じる官道（西海道）の推定ライン上にあるものです。『延喜式』という文献には「蚕養（こかい）駅」という記述があり、この付近がそれにあたるのではないかと考えられています。役人が馬を交換したり、宿泊したりする駅家（うまや・駅）が近くに存在していたのかもしれません。黒髪町遺跡群は律令制のもとでの古代の「駅伝制」を考える上でも重要な遺跡です。

（2002 年度調査）



中央と地方が文書を送りあったり、中央からの役人の赴・帰任の旅行のための制度として整備されたのが「駅伝制」と呼ばれるしくみです

この地点の北側では、良好な近世の畑畝あとが 200 条余り見つかりました。耕作土の土壌サンプルを水洗選別した結果、ムギ、マメ類が少量検出されました。この畑は白川段丘上に作られていましたが、18 世紀後半の洪水で埋没したようです。

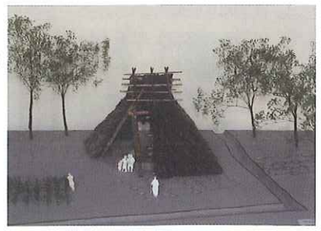
（1999 年度調査）

近世（江戸時代）

畑畝のあと

調査センターロビーにて
（人物 156cm）

8 世紀初頭から 10 世紀までの竪穴住居址や掘立柱建物跡を復元したものです。この地点では何度か家の建替えを行った跡もありました。



竪穴住居復元模型
（自然科学研究科建築系研究室修士（当時）沈泳茂氏製作）

熊本大学埋蔵文化財調査センター

学内の地下の文化財のことでわからないことがあったら、当センターへお越しください。学内出土の土器や石器の遺物を見ることもできます（要予約）。事前にお電話を下さい。

【連絡先・HP】
〒860-8555 熊本県熊本市黒髪 2 丁目 39 番 1 号
TEL&FAX 096-342-3832
http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/campasjouhou/maibun/

2011.10.1 版